


消防本部庁舎の全館運用開始について

「消防本部庁舎整備事業」については、令和 5 年 7 月に本館整備工事が完了し、同年 10 月より一部の供用としていましたが、令和 7 年 2 月に別館の整備工事が完了し、同年 3 月 1 日より全館運用を開始しましたので報告します。

今後は、強化された消防本部の機能をいかに発揮し、あらゆる災害に対していかなるときも機能を停止することなく、市民の皆様の安全・安心をしっかりと守っていきます。



【所在地】
横浜市保土ヶ谷区川辺町 2 番地 20

【建物概要】
敷地面積：3,247.18 m²
建築面積：2,367.18 m²
延床面積：14,845.00 m²

【階数構造】
本 館：地上 7 階/地下 1 階/塔屋 2 階 1 階柱頭部中間層免震構造
倉庫棟：地上 3 階 耐震構造
別 館：地上 5 階/塔屋 1 階 耐震構造

消防本部庁舎（外観）

1 本館

迅速な情報収集や意思決定を行うため、消防司令センターや消防本部会議室、消防本部運営室を一体的に整備した、消防本部の中核となる機能を集約した施設です。

(1) 災害対応

大規模災害時には消防司令センターで収集した情報等を活用し、迅速な災害対応方針の決定と指揮命令を行います。また、屋上にはヘリパッドを整備し、緊急消防援助隊を円滑に受け入れることができます。



消防司令センター



消防本部会議室



屋上ヘリパッド

(2) 執務環境

執務室は A B W^{*}の思想を取り入れたレイアウトになっており、職員の業務効率化とストレス緩和を図っています。

※ A B W (Activity Based Working)

業務内容や目的に合わせて働く場所を自由に選択するという考え方



執務室

(3) 消防機能の継続性強化

大地震や風水害から庁舎を守る免震設備や止水板、7 日間本部機能を維持できる燃料備蓄や 3 基の非常用発電機などを採用し、業務の継続性強化を図っています。



免震設備(減衰こま)



止水板



地下燃料タンク



非常用自家発電設備

2 倉庫棟

主に消防車両のガレージや横浜市から派遣する緊急消防援助隊の資機材等の保管倉庫として活用する施設であり、地下には 100 立方メートルの消火用水を貯水できる防火水槽を備えています。また、本館と倉庫棟の間に水平ロープを設定することにより訓練などを実施することが可能です。



倉庫棟



訓練風景

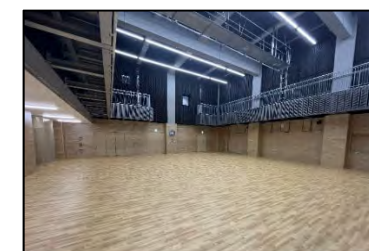
3 別館

特別高度救助部隊（S R）の執務室や様々な状況を想定した訓練が可能な訓練室を整備するとともに、個室化した仮眠室（25 室）、シャワー室等を備えるなど、性別を問わず当直しやすい執務環境を整えています。

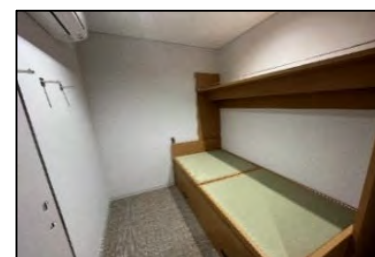
また、本市が被災した際に全国から派遣される緊急消防援助隊を受け入れる受援室を備えています。



執務室（S R）



訓練室



仮眠室



シャワー室



受援室